

# 2018年1月28日 主日礼拝 <洗礼式>

司 会 ①吉原兄 ②上田兄 ③岸兄

奏 楽

祈 禱 ①川村師 ②衛藤兄

主の祈り

賛 美 聖歌480番「輝く日を仰ぐとき」  
(感謝しつつ主の門に)(栄光から栄光へと私を変えて)

聖 書 ① ルカによる福音書5章1～11節 (P91)  
② マタイによる福音書20章29～34節(P32)  
③ コリント人への第二の手紙12章1～10節(P290)

音 楽 ① Cloud By Day  
②③聖歌隊 & アンサンブル

証 詞 ① 波木井一男兄(アブラハム会)

メッセージ ①「Deeper～深みに漕ぎ出して」 石橋雄介伝道師  
②「キリエ・エレイソン！！」 大川従道牧師  
③「弱さは メリット」 村上宣道先生

賛 美 「主はゆるしたもう」(419番・献金・東京の新会堂のために)  
頌 栄 「アーメン・主にハレルヤ！」 アーメン  
祝 禱

「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。』」  
(第二コリント十二の九)

## 【大和ニュース】

☆受洗おめでとう！！①今井兄(東京カルバリー)。

☆日本を代表する霊的指導者村上先生を心から歓迎し、主の祝福を祈ります。

・ 本日、洗礼準備会、手話研究、アブラハム会、セキュリティ奉仕会、J.Plus(学生・ヤンチャ)、青年会(15時)、責任役員会(14時)あり。

\* 今週も祈禱会を大切に！①水曜夜は、モンゴルからバーサンドリー師。

②木曜朝は小林伝道師 ③金曜夜は大野M伝道師。(※エステル会は、木曜屋食後)

\* 「断食祈禱日」は金曜9時～15時(主の十字架の時間帯)。接手は13時より。祈りの課題。

## 石の枕

先日テレビに小澤征爾氏が出ておられた。「今心にある歌は何ですか？」の質問に、「エーメン」(アーメンのこと)と言われ、歌い出され、スタジオがすてきな賛美であふれた。

月刊誌「福音と世界」に望月牧師が深いコラムを記しておられた。

「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。」(詩篇126の5)

あなたの心にしまわれた歌を全部出して歌うとすれば、いったい幾晩必要となるだろうか。(中略)ある年ソウルのとある教会で礼拝に出席した時、気付いたことがあった。それは賛美歌の音の高さだった。日本で見慣れた楽譜より、1音高くなっていた。日本では「音が高い」と言われるであろうその楽譜を、集った会衆は難なく歌い上げていたのだった。国によって歌いやすい音の高さは違うのかもしれない。その疑問を、私はある講習会で専門家に尋ねてみた。

すると話は意外な展開を見せた。答えてくださったのは、プロの作曲家として多くの歌をつくってきたS氏である。

S氏によれば、残念なことに日本人の音域は年々狭くなっているのだそうだ。それはここ30年ほど前から現れ始めた現象だという。S氏は特に子ども番組の歌をつくる中で、「年々狭くなる日本人の音域」を実感してきたというのだ。

なぜだかわかりますか、とS氏は私の答えを待たずに教えてくれた。それは赤ちゃんが泣かなくなったからですよ、と。

ご存知の通り、赤ちゃんは盛大に泣きわめく。赤ちゃんより少し大きくなった幼子も金切り声を出したり叫んだりする。実はそれが声の幅を広げるのだ。子どもの時に大きい声や高い声を出すのは音域を広げる練習でもあるという。けれども今は、子どもの声は「うるさいもの」と据えられがちだ。だから、大きな声を出す機会が少なくなって、大人になった時の音域も狭くなるのだという。正確に言えば、「赤ちゃんが泣かなくなった」のではない。泣く環境をせばめられていったのだ。

2千年前のあの夜、ベツレヘムにも赤ちゃんの泣き声が響いた。やがて多くの人の涙を歌声に変える救い主イエス様の産声が。

\*八木重吉の詩に「あーん！ あーん！」というのがある。クリスチャンは、もっと、神に対して、涙の叫び、感謝の賛美を捧げるべきであろう。

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう！  
Aコース:マタイ19～22章 Bコース:出エジプト記16～33章